様式 2

令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター
芸術資源活用プロジェクト　実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトのタイトル	埋立地のオルタナティブ・フォークロア	
実施責任者（申請代表者）	氏名	所属／学年／役職 （所属がない方は未記入）
	菅野歩美	東京藝術大学美術研究科 油画博士 3 年
実施期間	2023 年　4　月　　1 日　～　　2024 年　　3 月　　31 日	
実施内容 ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 （500～600 字）	プロジェクトの前半では、作家が新横浜を目的なく歩き、スナップ撮影などの行為を行った。その後、「新横浜美術館」というアートプロジェクトを行っている人々の協力を得て、新横浜に生まれ育った 20 代から 30 代の人々から、新横浜について思うことを自由に書いたエッセイやセンテンスを募集した。 それらの文章を作家が読み、もう 1 度新横浜を歩くことで、その景色の変化を体感し、前半に撮影した写真と、新たに撮影した写真を組み合わせて、「埋立地のフォークロア」という ZINE にまとめた。ZINE は印刷後、新横浜美術館の協力のもと、少量を街中で配布し、今後も配布可能な場所を探していく予定である。 ZINE を元に、新横浜美術館のメンバーと、埋め立て地のフォークロアについての座談会を行い、ZINE の制作以外の今後のアクションについて、他の埋立地でのフォークロアについてこの ZINE が成り立つかなどを話し合った。 また、芸術資料の活用としては、大学美術館の所蔵作品を「故郷」「ふるさと」「郷土」の三つのキーワードでサーチし、閲覧。新しいふるさと概念の構築を ZINE の作成を通して試みた。	
実績報告 ※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。 （500～600 字） ※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。 （必須）	本プロジェクトを通して、その土地に住む人のストーリーを知ることで、どんなに味気ないと思っていた街でも、景色が変わって見えることを実感した。これは地域で行われるアートプロジェクトで作品を制作する時に重要な問題であり、鑑賞者をいかに関係のない地域に引き込むことと、その土地に住む人々の新しいフォークロアを、どのようにアートで構築したり、解凍したりすることができるかという気づきに繋がった。 故郷や、ふるさとという概念は、近代以降の離郷をする人々が多数発生して生まれた概念である。かつて故郷やふるさとは、都市部から眼差指されるものとして存在してきた。今回プロジェクとで話を伺ったのは、新横浜の埋め立て地に生まれた、離郷した親の子供世代である。話を通して、それぞれが生まれながらに失郷のような感覚を抱き、自分の生まれた土地に故郷概念を発見していく作業を必要としている部分があることが分かった。 ZINE の制作では、たとえ個人的な話であったとしても、形を与えて人と共有することで、その土地の新しいフォークロアと呼ぶことができるのではないかというかという仮説に、確信を持つことができた。	

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。（必須ではありません）